

コラムのタイトルが変わったのに、また有為楠君代の名前が出て来て、びっくりされたことでしょう。実は、北京の本屋さんで、児童向けの本を自分用に物色している時、大きな字の四字成語が並び、絵付きで成語の解説をした本が目につきました。手に取って、パラパラ捲って見ると、あまり馴染みのない成語が並んでいて、子供用なのにこんな難しいものを、とびっくりしました。更によく見ると、「有名小学校入学のための準備」と書いてあって、2度びっくりしました。

どうもこれは、昔、日本でも「論語の素読」などと言って、小さい子供に先ず暗記させ、歳が進むにつれて、内容を徐々に理解させる「寺子屋方式」ともいえる教え方があり、最近になって、その利点が再評価されるようになってきていますが、この本もその方式の教科書なのだろうと理解しました。

皆様にも、内容をお知らせしたくて、本の掲載順に四字成語をご紹介しますみようと立ちました。言葉の由来を説明する物語は、本に書いてあるまま訳してみます。以下が、タイトルの四字成語の説明文です。()内は、訳者が追加しました。

▶「毛遂自荐(毛遂自薦)」

戦国時代、秦が趙の国の都、邯鄲を攻撃してきました。趙は小国で弱いので、仕方なく(国王の弟の)平原君が楚の国へ援軍を送ってもらうよう頼みに行くことになりました。出発前に、平原君は学問にも武力にも優れた人たちを20名選んで一緒に連れて行くことにして、19人まで選びました。毛遂と言う人がいて、自分の才能に自信があり、この困難な任務に参加したいと自分自身を推薦しました。

楚の国に到着し、平原君は楚王と何日も話し合いましたが、楚王に援軍を送る決心をさせることは出来ませんでした。そこへ毛遂が進み出て、楚王に、以前楚の国が秦と戦って負けた時の口惜しさを思い出させ、又、趙が減びてしまえば、秦はきっと楚の国の安全を脅かすに違いないと説明し、楚王を納得させました。

楚王は、毛遂の話に心を動かされ、援軍を出すことに合意し、趙の盟友になりました。

成語の説明は以上で、この後に例文として、「張さんは自分から毛遂自薦で(積極的に)体育委員を買って出て、クラスメートを纏めて、一所懸命に運動会前の練習の指揮を執った」という文が出ています。

ここに登場する平原君は、斉の孟嘗君、魏の信陵君、楚の春申君を合わせて、紀元前3世紀ごろに活躍した、戦国四君と呼ばれるうちの一人です。この4人は、それぞれの国の王族或いは重臣で、自国存続のために縦横に活躍し、四字成語にはよく登場します。

「戦国時代」だの、「秦・趙・楚」などの国名、「平原君」などの人名を、ここで初めて聞く子供たちも、様々な四字成語のお話を聞くうちにおなじみになって、知識として定着していくのでしょうか。それにしても、積極的に自分を売り込んで手柄を立てる話が、四字成語として教えられているとは、中国の方に積極的な方が多い一つの原因かしらと思ひ至りました。

さて、読者の皆様は、これが、小学校入学前の子供たちに聴かせるお話であるということをご想像されるでしょうか。今回はほんの手始めです。今後にご期待ください。

